

世界の資本市場の見通し

金融混乱が市場を揺さぶる

2003年以来、金融市場におけるボラティリティは世界の市場で長期的な平均を大幅に下回る水準で推移してきました。2007年7-9月期に世界中でボラティリティは、依然平均を下回ったものの、著しく上昇しました。この引き金となったのは米国のサブプライム危機です。米国の一部の住宅購入者のローンで焦げ付きが発生したもので、これらのローンは証券化され、世界の投資家に販売されていたため、サブプライム危機は世界の株式、債券市場に波紋を起こしました。

世界経済は危機を克服

サブプライム危機が広がる中、投資家はこの問題の及ぶ範囲について思案しています。米国経済はどの程度打撃を受けるか、不良債権化した米住宅ローンを海外投資家はどの程度保有しているかといった問題です。米国経済については、住宅市場は個人消費に悪影響を与えているものの、米国の輸出の復活が一定の景気支援要因となっています。

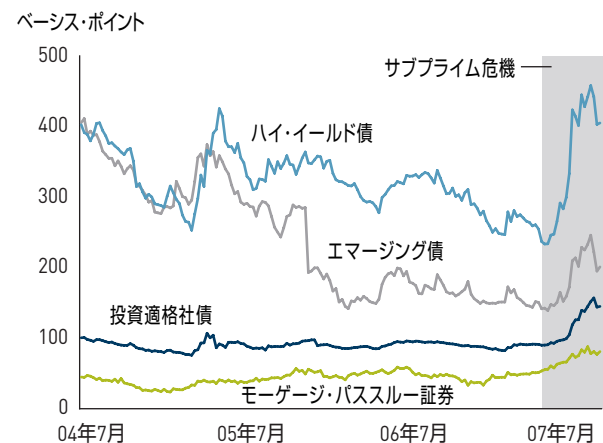
実際、世界経済は底堅いペースで拡大しており、2007年及び2008年のGDP成長率予想は3.5%となっています。日本を除くアジアは急成長を続けており、東欧、中東、アフリカの経済も活力を示しています。ユーロ圏の成長率は長期トレンド水準で推移していますが、米国の成長率は2007年が2.0%、2008年が2.5%にとどまる見通しです。米国は世界景気を牽引するのではなく、実は他地域における堅調の恩恵を受けています。

米国は利下げ、その他の一部の国は利上げ方向

米国のインフレは抑制されている模様であり、景気は減速し、サブプライム問題がくすぶる中、米連邦準備制度理事会は9月18日に50ベース・ポイントと、多くの投資家の予想を上回る利下げを実施しました。

中国は2007年末までに27ベース・ポイントの利上げを行うと見られ、日本銀行は25ベース・ポイントの利上げ実施が見込まれます。欧州中央銀行は年内は金利を据え置く見通しです。

債券利回りはサブプライム危機に反応



過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

2007年9月28日現在

出所：リーマン・ブラザーズ及びJPモルガン

当資料は情報提供のみを目的としており、2007年9月28日現在の見通しを基に、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものを、アライアンス・バーンスタイン株式会社が要約および翻訳したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載されている予測、見通しあるいは見解のいずれも実現される保証はありません。当資料の記載内容、データ、図表等は作成時のものであり、今後予告なしに変更する場合があります。いかなる場合も当資料に記載されている情報は投資に関する助言と見なされません。当資料で使用している各指数に対する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

株式と債券はボラティリティの影響をほぼ回避

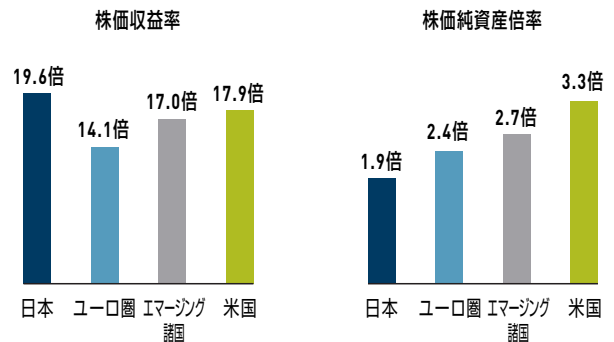
ボラティリティの上昇局面で、債券投資家はしばしば「質への逃避」を実行し、リスクの高い投資から資産を移して米国国債を購入します。最近のボラティリティ上昇時にも一部でこの現象が起きました。米国国債のリターンは2007年7-9月期にドルベースで3.8%となりました。

しかし、リスクの高い債券セクターで利回りの大幅な上昇は見られませんでした。世界のハイ・イールド債券の米国国債に対するスプレッド(基本的には超過利回り)は2007年7-9月期に拡大したとはいえ、長期平均を依然下回っています。エマージング市場債券の米国国債に対するスプレッドも拡大しましたが、歴史的低水準をやや上回るにすぎません。

株式も多くの市場で持ちこたえました。米国、エマージング諸国、欧州、日本の株式市場は幅広いセクターの企業利益の好調に下支えされました。企業は全般に過去6年間で債務を削減してきており、信用指標もプラスとなっています。こうした点から世界の市場は、割高でもなく、極端に割安でもない、適正水準にあります(右図参照)。

ボラティリティは誰にとっても楽しめるものではありませんが、投資原則の基本に立ち帰る良い機会となります。すなわち、長期的な視野を持ち、様々な種類の資産を保有し、かつグローバルなポートフォリオを構築する必要があります。

世界の株式市場は依然適正水準



過去の実績及び現在の予想は将来の結果を保証するものではありません。
2007年9月25日現在

スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)500種インデックスは米国の主要企業500社の銘柄で構成される、米国株式市場全体のパフォーマンスを測定する一般的な指標であり、実際に運用されているものではありません。MSCI EAFE(欧州、豪州、極東)インデックスは米国とカナダを除く先進国市場の株式のパフォーマンスを測定することを目的とした浮動株調整後時価総額インデックスであり、実際に運用されているものではありません。

出所：MSCI及びスタンダード・アンド・プアーズ

アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者(投資運用業)：関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】社団法人投資信託協会／社団法人日本証券投資顧問業協会

当資料は情報提供のみを目的としており、2007年9月28日現在の見通しを基に、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものを、アライアンス・バーンスタイン株式会社が要約および翻訳したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載されている予測、見通しあるいは見解のいずれも実現される保証はありません。当資料の記載内容、データ、図表等は作成時のものであり、今後予告なしに変更する場合があります。いかなる場合も当資料に記載されている情報は投資に関する助言と見なされません。当資料で使用している各指数に対する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。